

公益社団法人 地盤工学会関東支部



JGS Kanto

Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

巻頭言・地盤工学を起点にあらゆる課題解決に貢献

副支部長 小峯 秀雄
早稲田大学 理工学術院

2019年4月26日に行われました公益社団法人 地盤工学会関東支部総会で副支部長に選出されました早稲田大学の小峯秀雄です。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。実は、2013年4月から3年間、幹事長も務めさせていただいており、3年ぶりに戻ってきたという感じです。

今回、副支部長就任にあたり、この伝統あるニューズレターの巻頭言を書くことになりましたが、実は、幹事長就任のときにも記しました。どんなことを記したか、もう一度、読み直してみました。なるほど、自分の学生時代の地盤工学会での出来事をベースに、学生さんをはじめとする若い技術者に同じような経験をして欲しいという感じだったのですね。この



思いは、今でも変わりません。地盤工学会を通じて出会った先生方に憧れ、同年代の研究者の方々とは切磋琢磨して、自分自身成長できたと実感しています。このような経験をさせていただいた地盤工学会には感謝しかありませんし、次世代の人にも、同じような経験をしたいということですね。

と、ここまで記していて、「あれっ、なんか変だな」と思ってしまいました。続いて思い浮かんだ言葉は、「歳とったかな、なんか説教臭い。自分の経験を、若者に押し付けていないか」と。間違っていないと思うのですが、そんなこと、わざわざ言わなくても若い人たちは分かっていますよね。「それより、自分はどうなんだよ」と自問自答の言葉も浮かんできました。ということで、次の段落では、幹事長の任期を終え関東支部に戻ってくる前の3年間に、私の考えたこと、やってきたことを少しお話ししたいと思います。あくまでも私見ではありますが、地盤工学会関東支部、そして地盤工学会の活動でのヒントになればとも思います。

ご存知の方もいるかもしれませんが、小峯が53歳になった2015年度に「福島第一原子力発電所廃止措置に向けた地盤工学的新技术と人材育成に関する検討委員会（略称：廃炉地盤工学委員会）」を立ち上げ、座長として活動しています。この委員会の内容は、参考文献2)をご覧くださいこととして、この

活動のキーポイントを一つ挙げると、原子力工学者との“協働”です。すなわち、異分野との“協働”ということです。私は、1987年の25歳の時から、自身の研究の一つとして、放射性廃棄物処分に係る地盤工学技術の展開を行ってきています。現在では経済産業省の審議員にも就任していることから、福島第一原子力発電所の廃止措置（以下、1F廃炉プロジェクトと記します）も同じようにできたらと安易に考えていました。しかし、それは大きな間違いでした。放射性廃棄物処分は、原子力工学分野の、いわゆる“バックエンド”と呼ばれる分野の方々との協働ですが、福島第一原子力発電所の案件は“フロントエンド”と言われる原子力プラントの主要部分の設計・製作・操業を担ってきた技術者たちでした。先の“協働”を進めることは、お互いの学問の文化の違いを理解し、お互いの技術的価値観をすり合わせていく作業のように感じています。これはまさに「言うは易く行うは難し」でした。小峯は、1987年の25歳の時にすでに、バックエンドの技術者たちとの“協働”でも感じたことですので、今回も何とかなると考えていました。しかし、2015年時点で53歳になった小峯にとって、フロントエンド技術者との“協働”は、それをはるかに超える精神的な辛さがありました。もしかしたら、先ほど申したように「歳をとった」ことによるのかもしれませんが、53歳の小峯は「なぜ、わざわざ、こんな大変なことをやらなきゃいけないのか」と正直、思っていました。1987年の頃、25歳の小峯は何者でもなかったもので、当時は「やるしかない」と思って乗り越えてきたのでしょね。若さは何にも勝るものと思います。そう思ったとき、そう、2016年に54歳になった小峯は、「もう一度、25歳の時の気持ちで、やるしかない」と毎日、心に念じて1F廃炉プロジェクトに取り組むことにしました。そうすると、不思議と何とかなってきた、今では、原子力技術者が一同に会す「廃炉基盤研究プラットフォーム」にも、地盤工学会の席が常設されるようになってきました。もう一度、25歳のNobodyの小峯の気持ちを思い起こしてやってみると、新しい分野との“協働”もできるものと、最近は感じています。

さて、“協働”というキーワードで長々と、ここ3年間の話を記してきました。そうしていたら、もう一つの“協働”に気付きました。地盤工学会の学生会員と、正会員や国際会員の“協働”というものもあるように思います。確かに文化も価値観も違いますね。いや、いや、名誉会員様も含め、各会員間の“協働”を考えていく必要があるように感じてきました。

徒然なるままに、この巻頭言を記してきて、会員の各世代間の“協働”の活性化も、学会活動に必要なことと認識しました。ダイバーシティ委員会、すでに議論されているかもしれませんが、どうでしょう、皆さん。同じ年代やジェンダーの会員同士だけで、寄り集まっていないでしょうか。同年代の交流はもちろん、大切ですが、そこに、自分以外のジェネレーションやジェンダーの会員にも仲間に入って見てもらってはでしょうか。

教員と学生が“協働”する大学研究室は、かなりギャップのある世代間ではありますが、無理にでも世代間の“協働”をしなければなりません。こういう経験を毎日している私ですから、まずは、GeoKantoの交流会から、世代間、大学間、各会員間の“協働”から始めてみたいと思います。では、各世代の会員の皆さん、異文化交流を楽しみ、“協働”していきましょう！

参考文献

- 1) 小峯秀雄：“学術に対してワクワクするような向学心”を醸成したい！、
公益社団法人 地盤工学会関東支部、ニューズレターNo. 31, September 2013,
入手先<<http://www.jgskantou.sakura.ne.jp/newsletter/pdf/No31.pdf>>（参照 2019.7.29）
- 2) 廃炉地盤工学，地盤工学会，入手先<<https://www.jiban.or.jp/hairo/>>（参照 2019.8.7）

南山東部土地区画整理事業 高盛土工事現場見学会 開催報告

関東支部 企画総務グループ
幹事 加藤謙吾 (佐藤工業(株))

2019年5月13日(月)、東京都稲城市南東部に位置する南山東部土地区画整理事業区画で高盛土工事現場の見学会が行われました。本地区は、京王電鉄相模原線の稲城駅と京王よみうりランド駅のほぼ中間に位置します。本見学会は、参加者20名と幹事2名が参加しました。天候は晴れで、5月中旬としては汗ばむ陽気になりました。

本見学会を開催するに当たり、南山東部土地区画整理組合の担当者と内容の打ち合わせし、悪天候時の対応や服装、現場を歩く際の注意事項等を確認しました。本見学会は高盛土現場を歩くことから、汚れてもよい服装であること、ヘルメットを持参すること等が注意事項に上がりました。

当日は、京王よみうりランド駅前に集合し、徒歩で10分程の距離にある高盛土工事現場へ向かいました。また、現場の案内を整理組合及び施工業者である大成建設の担当者の方に担当頂きました。本現場は、高盛土現場から京王よみうりランド駅方面へ抜ける道路トンネルと高盛土による造成地とに分かれており、近年行われた首都近郊の区画整理事業としては大規模工事となります。道路トンネルは、土被り厚が小さいため地盤沈下に注意を払いながら施工を行ったとのこと。盛土は、東京都の宅地造成に関わる規準に記される最大高さ18mを超えることから、本高盛土工事の安定体対策のために、液状化や残留沈下量、円弧すべり等に対する規準が改めて設けられたとのこと。高盛土には、現場から採取される稲城砂とロームが用いられました。高盛土を安定させるために、排水シート、導水管及び集水桝の設置、砕石排水層等を設けることにより、雨水の盛土内への浸透を防ぐ対策が取られていました。高盛土には現場を一望できる高台が設置されており、工事現場の様子、切土面に露出した地盤構造、遠くに広がる稲城市等を臨むことが出来ました。

高盛土現場を見学後、組合事務所に移動し、本土地区画整理事業の概要についてお話し頂きました。ここでは、事前に用意された資料をもとに、整理事業の経緯や規模、事業費、工期等が説明されました。また、質疑応答の時間も設けていただき参加者から、高盛土の安定対策や品質管理、ICTの現場への適用等、様々な質問が上がり、参加者の強い興味が伝わってまいりました。組合事務所での説明後、稲城駅前にて解散し、懇親会参加者は稲城駅前の居酒屋でお酒を交わしました。

末筆になりますが、今回の見学会の準備及び当日の案内までご協力をいただきました南山東部土地区画整理組合様及び大成建設様に厚くお礼を申し上げます。



写真-1 高盛土造成現場を歩く



写真-2 トンネルの案内の様子

「ジオ散歩 ～城ヶ島での地層巡検の旅～」の開催報告

関東支部 会員サービスグループ

担当幹事 高田 英典 ((株)不動テトラ)

今林 清秀 ((株)不動テトラ)

荒井 郁岳((株)ジオデザイン)

松田 幸弘 (関東学院大学)

会員サービスグループでは、歩きながら、見て、知って、学ぶ企画「ジオ散歩」を開催しています。第4回となる今回は、去る2019年5月18日「ジオ散歩 ～城ヶ島での地層巡検の旅～」と題して、神奈川県三浦半島の最南端にある城ヶ島をフィールドに開催しました。当日は天気にも恵まれ、18名の参加者とグループ幹事の総勢28名で城ヶ島を散歩し、盛況のうちに終えることができました。

今回は、城ヶ島北西の灘ヶ埼をスタート地点に、海岸沿いに城ヶ島内の土質巡見スポットを8か所、講師の案内の元巡り歩く約6kmのルートを設定しました。講師には、横須賀市自然・人文博物館学芸員の柴田様をお招きし、一般的な地質に関する説明に加え、城ヶ島の地層の成り立ち・特徴および地質巡見のポイントなど大変丁寧にご説明いただきました。

城ヶ島では、約1200万～440万年前に深海の海底で堆積した三崎層・約440万～400万年前に三崎層の窪地に堆積した初声層・6万～2万年前の関東ローム層が観察でき、地層が形成される過程について知ることが出来ました。また、城ヶ島独特の地質的特徴や堆積物による地層の形成過程を推測することができました。城ヶ島の雄大な自然を望みながら、はるか昔からの大地の動きを感じることができました。

散歩を終え、参加者の方々からは「土木技術者にとって貴重な知識をもたらし、発見のある行事だった」との声が寄せられております。多くの皆様にご協力いただくとともに、特に横須賀市自然・人文博物館学芸員の柴田様の多大なご協力により、充実した内容とすることができました。紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。



写真-1 集合写真 馬の背洞門を背に



写真-2 地質観察 灘ヶ埼にて

栃木県総合スポーツゾーン建設現場見学会 開催報告

関東支部 栃木県グループ
幹事 清木隆文（宇都宮大学）

栃木県では、宇都宮市西川田地内の栃木県総合運動公園と同公園に隣接する元競馬場や元運転免許試験場等において、「総合スポーツゾーン」の整備が平成27年から本格的に進められています。これらの施設は、2022年に栃木県で開催される国民体育大会を見据えるとともに、2020年東京オリンピックの開催に際して、海外からの選手団のキャンプ施設としての活用も期待されています。この整備事業では、約25,000人収容可能な陸上競技場（日本陸上競技連盟第1種公認）兼サッカー場（Jリーグ施設基準）が新設（2020年3月完成予定）されています。また、周辺にはウォーキングコースやサイクリングコースの整備が予定され、新武道館なども併せて建設されています。栃木県グループでは、栃木県県土整備部のご厚意で、令和元年7月12日（金）の14:00～16:00に、これらの大規模建物の建築、改修や造成を計画的に調和させた建設工事を見学する機会を頂きました。参加者は、県外からも含め15名でした。住宅会社からの参加もありました。

はじめに、現場事務所において、栃木県県土整備部総合スポーツゾーン整備室の茂木様からご挨拶をいただき、大森様から事業概要を説明していただきました。その後、特定建設工事共同企業体の藤森様から新スタジアムの建設の流れ、基礎工事のための多点調査を短時間に高い密度で行う地盤調査車の活用とその調査結果から得られた地質層序、建物基礎と地盤改良について説明をしていただきました（写真-1）。その後建設が進む新スタジアムの現場を見学させていただきました。2階部分へ向かう階段からスタジアムに入ると、目の前に広大なフィールドの土工と橋梁工事の様な観客席から屋根部分の工事が広がりました（写真-2）。ちょうど屋根の膜を設置しはじめたところで、厚さ1ミリ以下の膜屋根ですが、東京ドームと同種の材料ということで、耐久性も十分であることが理解できました。

この度の見学会を通して、地盤内を密に調査し必要な地盤改良が行われ重厚なスタジアムを支えていること、また、いざとなれば災害時の広域災害対策活動拠点にもなるなど、多機能なスポーツゾーンについて知る良い機会となりました。



写真-1 概要説明の様子



写真-2 参加者集合写真

2019 年度ジオセミナー 開催報告

関東支部 会員グループ

担当幹事 石井 亜季子 (川崎地質(株))
山口 恵美 (関東学院大学)
小林 綾乃 (関東学院大学)

2019年7月25日(木)に、地盤工学会関東支部において「2019年度ジオセミナー」を開催しました。令和初の記念すべき第1回目は、講師に関東学院大学客員教授の東畑郁生先生をお迎えして「人工誘発地震 Induced earthquakes」というタイトルの元、ご講演していただきました。

今回の講演は2部制とし、第1部では講義形式で国内や海外の様々な誘起地震の事例である、ダム湖の水圧伝搬による間隙水圧の上昇、石油・ガス採掘、流体の加圧注入による水圧破碎、重量構造物設置によるせん断応力増大、鉱山の坑道崩壊による振動などといった、人間がより良い技術を生み出し大きな力を得た事により、自然破壊や環境汚染といった人間活動が自然に悪い反応を起こし、予想外の結果を誘起する危険があることについてお話していただきました。第2部では飲物やお菓子を頂きながらディスカッションを行い、若手からベテランまで幅広い世代での活発な討論が行われ、時間が足りないほど盛り上がっていました。

参加して下さった多くの皆様と講師の東畑先生のご協力により、充実したセミナーとなりました。紙面を借りまして感謝申し上げます。参加者の皆様から寄せられたご意見を基に、今後も幅広い年代・職種の方が参加しやすい行事を実施していきたいと思っております。

開催日時： 2019年7月25日(木) 16:00~18:00

参加人数： 56名



写真-1 ディスカッションの様子



写真-2 講演の様子

叶山石灰石採掘現場見学会 開催報告

関東支部 群馬県グループ
土倉 泰（前橋工科大学）

地盤工学会関東支部群馬県グループでは、秩父太平洋セメント株式会社叶山鉱業所のご協力のもと、石灰石を採掘する現場の見学会を2019年8月6日に開催しました。受入れ先のご指定があったため限定15名受付の企画とし、参加者15名で実施されました。

叶山鉱山は群馬県南西部の埼玉県境にある神流町に位置します。この鉱山の創業は1984年です。石灰石は、露天でのベンチカット工法で年間約160万トン採掘されています。平日12:10頃に発破をかけられるそうです。神流川に土砂を落とせないので採掘ベンチの縁の部分に発破はつかえず、当該部はパワースプリッターという重機で割岩していると伺いました。現地の山はもともと1,100mでしたが、その鉱床部分に相当する鉱山の北側部分が東西方向にこれまで高さ250mほど採掘されています。

採掘された石灰石は、大型重機で立坑へ運搬・投入され、その後に破碎されて、ベルトコンベアー3基により県境を越え埼玉県秩父市の自社工場まで約23キロ運ばれます。3基のうち、14キロ（1周28キロ）のベルコンは日本最長です。そして、秩父市の自社工場では特殊セメント製品等の原料としてつかわれ、太平洋セメント熊谷工場まで秩父鉄道の貨車で運ばれたものは普通セメントの原料となります。

当日は暑い中、受入れ先でご用意くださった3台の車に分乗し、下から見上げて目を凝らすと重機のたたずんでいるのが何とかわかる程度、たぶん公道からは石灰石の採掘現場があると気づくことはないだろうと思われる山の頂まで、トンネルを通ったあと急な斜面を相当登る経路で連れて行っていただきました。山頂で採掘現場全体を鳥瞰し（写真-1）、その後掘削しているレベルまで下りてきて60トン積み大型ダンプトラックの脇で写真を撮りました（写真-2）。それから、また車に分乗してトンネルに入り14キロのベルコンの出発箇所を案内していただきました。

山頂にいたときからゴロゴロと雷が鳴りだしましたが、見学中は雨に降られることもなく、出発した事務所へ戻る直前に傘をささないで濡れたくらいで済んだのは幸いでした。石灰石採掘現場では晴れていましたのでよく見渡すことができ、参加者はスケールの大きな現場の見学を堪能しました。お世話くださった関係各位に深く感謝いたします。



写真-1 山頂からみた採掘現場



写真-2 60トン積みダンプの前で記念撮影

「関東支部 法律家・消費者のための住宅地盤 Q&A（書籍および普及活動）」 地盤工学会事業企画賞を受賞

関東支部 地盤リスクと法・訴訟等に関する事例研究委員会（H28 終了）

元委員長：稲垣秀輝((株)環境地質)

平成 30 年度の事業企画賞いただき、令和元年に受賞したことは大変光栄である。関東支部の「地盤リスクと法・訴訟等の社会システムに関する事例研究普及委員会（委員長：稲垣秀輝）」では、その活動の 1 つとして宅地地盤の安全・安心のための取り組みをしてきた。その成果として、「法律家・消費者のための住宅地盤 Q & A」を出版し、全国の裁判所や弁護士会に献本したほか、定価 2300 円で広く消費者の方々に販売している。自然災害によって宅地の被害が急増する中、学会として対応が遅れていた一般宅地の安全性を評価する内容が受賞の対象になったのではないかと考える。この委員会の前委員会「地盤工学におけるリスクマネジメントに関する事例研究委員会（委員長：日下部治）」でも「役立つ地盤リスクの知識-自然災害に負けない地盤がわかる本-」を出版しており、その成果も受賞の加点になったと判断している。本委員会では、もう 1 つのテーマとして全国の地盤を定量的に評価する G N S に関する研究も行ってきた。その研究は、現在「自然災害に対する安全性指標（GNS）の開発とその利活用に関する研究委員会（委員長：伊藤和也）」に引き継がれているので、今後のその成果が期待される。今回の受賞は本の執筆者だけでなく委員会のメンバー全体の努力の結果でもあり、委員会の活動に参加・支援していただいた方々に感謝する。

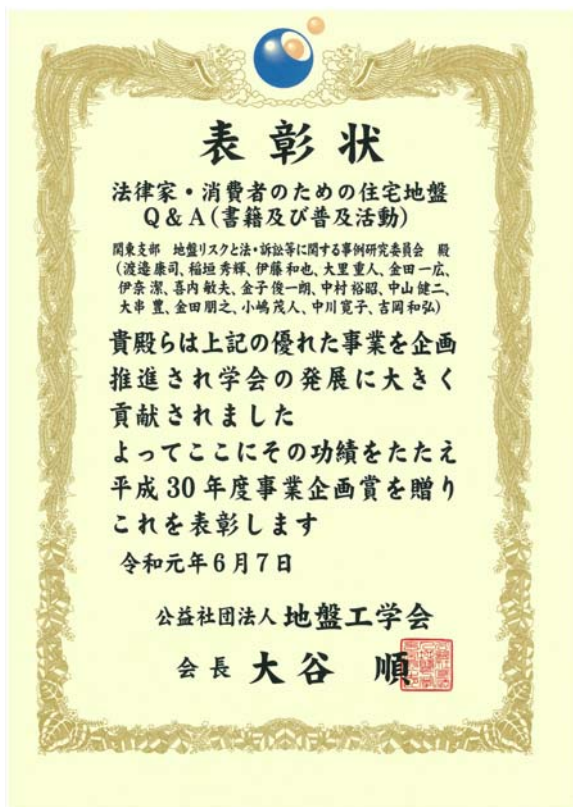


写真-1 事業企画賞表彰状



写真-2 記念撮影

2019 年度地盤工学会関東支部賞候補募集要項

公益社団法人 地盤工学会関東支部

地盤工学会関東支部では、「地盤工学会関東支部技術賞」、「地盤工学会関東支部功績賞」および「関東支部発表会優秀発表賞」の3つの賞を設け表彰する事により、その業績を讃え、合わせて関東支部活動の活性化を目指しております。このうち、「地盤工学会関東支部技術賞」と「地盤工学会関東支部功績賞」の候補者の募集を行います。これらの賞は、支部会員の地盤工学的観点から優れた工事の業績、技術の開発と実用化、創造性等に優れた学術成果、地盤工学関係技術者の育成や技術力向上、学会のPRなどへの業績や社会的地位向上に貢献を行った活動に対し表彰し、その成果を讃えるものです。以下の募集要項に基づき、奮ってご応募頂きますようお願い申し上げます。なお、「関東支部発表会優秀発表賞」については、関東支部発表会実行委員会の規程に基づき、別途表彰を行います。

受賞対象：関東地域に関係する次のいずれかに該当する業績を対象として、個人（複数可）または団体に授与する。

地盤工学会関東支部技術賞：

- ①地盤工学的観点から優れた工事の計画、調査、設計、施工、計測および維持管理等に関する業績等
- ②活用性、汎用性に優れた技術の開発および実用化等
- ③創造性、特殊性を有する学術的に優れた研究論文および研究報告等

地盤工学会関東支部功績賞：

- ①地盤工学関係技術者の育成および技術力向上に顕著な貢献をしたと認められる業績等
- ②地盤工学のPRおよび社会的地位向上に貢献をしたと認められる業績等
- ③地盤工学会会員として関東支部の活動に永年従事し、顕著な貢献をしたと認められる業績等

対象者資格：受賞対象者の資格は、特に設けない。ただし、地盤工学会関東支部功績賞の③については、支部会員（正会員、学生会員、特別会員）、および支部会員を代表とする機関あるいはグループとする。ここで、支部会員を代表とする機関とは支部会員が代表を務める機関とする。また、特別会員は特別会員である機関の下部機関についても応募対象者とする。なお、特別会員に属する非会員の個人を代表とするグループについては応募対象者とししない。さらに、ここでの会員とは応募時点において会員であり、かつ推薦締切日において引き続き会員であるものとする。

応募の形式：推薦とします。自薦・他薦を問いませんが、推薦者は関東支部の正会員（関東支部表彰委員を除く）、または特別会員であること。ただし、関東支部が主催する委員会活動および行事などは応募の対象外です。

審査：地盤工学会関東支部の表彰委員会により審査を実施し、受賞者を決定します。必要に応じてヒアリングを実施いたします。

発表：受賞決定の場合には、直接該当者に通知します。

表彰：2020年4月の関東支部通常総会において行い、受賞者には賞状・副賞を贈ります。

推薦受付：2019年9月13日（金）より2019年11月25日（月）まで。郵送の場合、当日消印のあるものを有効とします。

提出先：封筒の表に、「地盤工学会関東支部賞○○○○○賞候補推薦」と記入のうえ、下記へ直接持参するか、あるいは書留で郵送してください。

〒112-0011 東京都文京区千石 4-38-2JGS 会館内
 公益社団法人 地盤工学会関東支部
 電話 03-3946-8670 FAX 03-3946-8699

※ 推薦書は地盤工学会関東支部の website よりダウンロードください。
<http://www.jgskantou.sakura.ne.jp/event/2019kantouaward.html>

(提出資料)

- 1.推薦書 1部
- 2.業績を示す資料（該当する業績ごとに以下に示す資料）10部
 - 地盤工学会関東支部技術賞①、②：該当業績を記した論文または業績の内容が分かる説明資料やパンフレット
 - 地盤工学会関東支部技術賞③：当該研究論文もしくは研究報告、1編
 - 地盤工学会関東支部功績賞①、②：業績リスト（出典明示）と代表的資料のコピー3編
 - 地盤工学会関東支部功績賞③：地盤工学会における活動履歴と業績リスト（出典明示）

平成 30 年度関東支部賞受賞

技術賞	「粘性土地盤上の河川堤防と近傍家屋の地震時変状対応技術」
	国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所 株式会社建設技術研究所 茨城大学工学部都市システム工学科・地球変動適応科学研究機関

この度、国土交通省常陸河川国道事務所、（株）建設技術研究所と茨城大学の連携によって提案・施工された「粘性土地盤上の河川堤防と近傍家屋の地震時変状対応技術」に対して2018年JGS関東支部技術賞を戴いた。

本稿の対象となった箇所は、軟弱な粘性土地盤上に構築された河川堤防及び周辺家屋に変状が観察されたため、動態観測を継続していたが、2011年東北太平洋沖地震時に変状の大きな増加が見られた。そのため、地震後の堤防の側方変位とそれらが周辺家屋へ及ぼす影響を低減することを目的に、堤防の一部を撤去し法尻に鋼矢板を打設した後、堤防を元の高さまで戻す対策工を実施した。この対策工は、家屋の沈下や側方変位低減に対して有効であることが認められた。

【行事報告】

日 程	行事名称	場 所
2019.04.26	支部総会・特別講演会「衛星搭載干渉 SAR 手法を用いた地殻変動の3次元計測」	JGS 会館
2019.05.13	企画総務グループ「南山東部土地区画整理事業高盛土工事現場見学会」	稲城市南東部地区
2019.05.18	会員サービスグループ 70 周年記念事業「ジオ散歩～城ヶ島での地層巡検の旅～」	三浦半島
2019.06.06-07	企画総務グループ・会員サービスグループ 70 周年記念事業「若手技術者を対象とした意見交換セミナー」	マホロバマインズ三浦
2019.07.02	共催行事「中山間地域における広域的な豪雨による土砂災害メカニズムの究明と地域防災力の向上に向けた取り組みに関する研究討論会」	JGS 会館
2019.07.12	栃木県グループ「栃木県総合スポーツゾーン建設現場見学会」	栃木県総合スポーツゾーン新スタジアム建設現場
2019.07.25	会員サービスグループ「2019 年度ジオセミナー～人工誘発地震 Induced earthquakes～」	JGS 会館
2019.08.03	後援行事「夏休み親子現場見学会（土木学会 地下空間研究委員会）」	東京駅北通路周辺整備工事
2019.08.06	群馬県グループ「叶山石灰石採掘現場見学会」	叶山鉱山
2019.09.12	群馬県グループ「浅間山火山噴火緊急減災対策現地見学会」	浅間山
2019.10.04	2019 年度第 1 回商議員会・特別講演会「高速道路における土工技術の変遷」	JGS 会館

ゴシックの行事報告を本号でご紹介しています。また、これまでの行事報告については関東支部のホームページでご覧下さい。

【行事予定】

日 時	行事名称	場 所
2019.10.12	歴史遺産の地盤工学研究に関する研究委員会「歴史遺産の地盤工学研究に関する研究シンポジウム」	中央大学駿河台記念館
2019.10.31	第 16 回地盤工学会関東支部発表会（GeoKanto2019）	国立オリンピック記念青少年総合センター
2019.11.09	会員サービスグループ 地盤工学会創立 70 周年記念行事「第 14 回ソイルストラクチャーコンテスト」	日本大学理工学部船橋キャンパス
2019.11.09	共催行事「“彩の国” 市民科学オープンフォーラム」	ラフレさいたま

行事予定の最新情報については関東支部のホームページでご確認ください。

【今後の委員会予定】

日 時	委員会名称	場 所
2019.10.11 10:00～12:00	GeoKanto2019 第2回実行委員会	JGS 会館
2019.10.17 15:00～17:00	新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会 WG1・2	JGS 会館
2019.10.25 14:30～17:00	液状化に係わる被害のメカニズムと名称を考える委員会	JGS 会館
2019.11.01 15:00～17:00	新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会 WG3	JGS 会館
2019.11.06 15:00～17:00	新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会	JGS 会館
2019.11.07 13:00～17:00	会員サービスグループ幹事会	日本大学理工学部船橋キャンパス
2019.11.29 15:00～17:00	企画総務グループ幹事会	JGS 会館
2019.12.13 14:00～17:00	運営委員会	JGS 会館
2019.12.20 14:00～17:00	自然災害に対する安全性指標（GNS）の開発とその利活用に関する研究委員会	JGS 会館
2020.01.09 15:00～17:00	新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会 WG1・2	JGS 会館
2020.01.22 14:00～17:00	新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会	JGS 会館
2020.01.31 15:00～17:00	企画総務グループ幹事会	JGS 会館
2020.02.14 14:00～17:00	運営委員会	JGS 会館

関東支部では、メーリングリストにご登録頂いた会員の皆様に行事案内を随時お知らせしております。登録をご希望の方はお名前、会員番号、メールアドレスを明記の上、E-mail：kantouevent@jiban.or.jp または FAX：03-3946-8699 までお申し込み下さい。

(加藤 謙吾：企画総務グループ 幹事)

発行 公益社団法人 地盤工学会関東支部 〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号 JGS 会館内 TEL 03-3946-8670 FAX 03-3946-8699 http://jibankantou.jp/
--